



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 あすか製薬株式会社

コード番号 4514 URL <http://www.aska-pharma.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 隆

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長 (氏名) 長尾 智仁 TEL 03-5484-8366

四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	26,582	13.2	746	△22.3	869	△19.3	577	△22.4
2019年3月期第2四半期	23,477	△6.3	960	△48.7	1,078	△45.9	743	△54.7

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 124百万円 (△90.9%) 2019年3月期第2四半期 1,364百万円 (△46.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	20.42	—
2019年3月期第2四半期	26.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	82,766	42,137	50.9
2019年3月期	82,194	43,456	52.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 42,137百万円 2019年3月期 43,456百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2020年3月期	—	7.00	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,000	13.5	2,000	12.2	2,100	6.1	1,000	△42.7	35.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	30,563,199株	2019年3月期	30,563,199株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	2,259,187株	2019年3月期	2,321,982株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	28,264,341株	2019年3月期2Q	28,204,571株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
(1) 主力品の売上高	10
(2) 臨床開発状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、第1四半期連結会計期間の期首より、収益認識に関する会計基準等を早期適用しております(注)。この影響を受け、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期から31億5百万円増加し、265億8千2百万円(前年同期比13.2%増)となりました。利益面につきましては、研究開発費や減価償却費の増加等により、営業利益7億4千6百万円(前年同期比22.3%減)、経常利益8億6千9百万円(前年同期比19.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億7千7百万円(前年同期比22.4%減)といずれも減益となりました。

(注) 詳細につきましては、P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

新会計基準適用の影響に加えまして、難吸収性リファマイシン系抗菌薬「リフキシマ」の売上拡大や昨年12月に発売したオーソライズド・ジェネリック「フリウエル配合錠」、本年3月に発売したGnRHアンタゴニスト「レルミナ」といった新製品の売上寄与等もあり、売上高は241億7千7百万円(前年同期比15.6%増)と増収となりました。一方、利益面では、新製品発売に伴い販売権の償却を開始したこと等による減価償却費の増加や開発ステージの進展に伴う研究開発費の増大等を受け、セグメント利益は22億9千7百万円(前年同期比10.3%減)と減益となりました。

②その他

動物用医薬品、臨床検査、医療機器、食品等の各事業を展開しているその他事業の業績は、動物用医薬品等の販売が減少したものの、販売費及び一般管理費の減少等により、売上高24億5百万円(前年同期比6.4%減)、セグメント利益1億2千5百万円(前年同期比36.6%増)と減収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5億7千2百万円増加し、827億6千6百万円となりました。これは主に、現金及び預金は減少しましたが、受取手形及び売掛金および商品及び製品が増加したためであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ18億9千万円増加し、406億2千8百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金は減少しましたが、短期借入金が増加したためであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ13億1千8百万円減少し、421億3千7百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上はありましたが、収益認識会計基準等の適用により利益剰余金の当期首残高が減少したことにより、利益剰余金が減少したためであります。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末から2.0ポイント低下し50.9%となっております。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ38億1千5百万円減少し、72億9千1百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果減少した資金は、53億3千万円(前年同期は5億9百万円の減少)となりました。これは減価償却費の計上およびたな卸資産の減少はありましたが、売上債権の増加および仕入債務の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、17億3千9百万円（前年同期は138億9千3百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、32億5千3百万円（前年同期は142億6千7百万円の増加）となりました。これは主に短期借入金の実行によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2019年5月10日公表の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,982	7,291
受取手形及び売掛金	11,022	15,134
商品及び製品	8,661	10,307
仕掛品	728	592
原材料及び貯蔵品	4,616	4,069
その他	1,819	1,556
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	37,829	38,951
固定資産		
有形固定資産	13,573	14,036
無形固定資産		
無形固定資産仮勘定	8,446	8,446
その他	6,885	5,926
無形固定資産合計	15,332	14,373
投資その他の資産		
投資有価証券	11,052	10,441
その他	4,423	4,980
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	15,458	15,404
固定資産合計	44,365	43,814
資産合計	82,194	82,766
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,094	2,695
電子記録債務	3,013	2,941
短期借入金	3,498	7,323
賞与引当金	884	879
その他の引当金	330	—
その他	6,180	6,542
流動負債合計	18,002	20,381
固定負債		
長期借入金	12,970	12,570
その他の引当金	820	820
退職給付に係る負債	6,618	6,538
その他	327	317
固定負債合計	20,735	20,247
負債合計	38,738	40,628
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	913	928
利益剰余金	40,630	39,687
自己株式	△2,281	△2,219
株主資本合計	40,460	39,595
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,130	2,661
退職給付に係る調整累計額	△140	△118
為替換算調整勘定	5	0
その他の包括利益累計額合計	2,995	2,542
純資産合計	43,456	42,137
負債純資産合計	82,194	82,766

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	23,477	26,582
売上原価	14,026	14,492
売上総利益	9,450	12,089
返品調整引当金繰入額	4	—
差引売上総利益	9,446	12,089
販売費及び一般管理費	8,486	11,343
営業利益	960	746
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	123	126
不動産賃貸料	66	66
その他	42	37
営業外収益合計	232	230
営業外費用		
支払利息	15	31
為替差損	23	—
不動産賃貸費用	57	55
その他	19	20
営業外費用合計	114	107
経常利益	1,078	869
特別利益		
保険代理店事業譲渡益	—	49
特別利益合計	—	49
特別損失		
ライセンス契約金償却	203	—
特別損失合計	203	—
税金等調整前四半期純利益	874	918
法人税、住民税及び事業税	209	77
法人税等調整額	△79	264
法人税等合計	130	341
四半期純利益	743	577
親会社株主に帰属する四半期純利益	743	577

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	743	577
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	568	△469
退職給付に係る調整額	53	21
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△5
その他の包括利益合計	621	△453
四半期包括利益	1,364	124
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,364	124

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	874	918
減価償却費	1,159	1,788
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3	△58
受取利息及び受取配当金	△123	△126
支払利息	15	31
ライセンス契約金償却	203	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,105	△9,813
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△686	1,288
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,119	△1,463
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△476	865
その他	△942	1,276
小計	△958	△5,292
利息及び配当金の受取額	123	125
利息の支払額	△9	△32
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	335	△131
営業活動によるキャッシュ・フロー	△509	△5,330
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	1,000	—
投資有価証券の取得による支出	△10	△65
投資有価証券の売却による収入	500	—
有形固定資産の取得による支出	△1,529	△1,514
無形固定資産の取得による支出	△13,332	△57
その他	△521	△102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,893	△1,739
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	4,200
長期借入れによる収入	14,900	1,000
長期借入金の返済による支出	△375	△1,774
自己株式の純増減額 (△は増加)	—	27
配当金の支払額	△197	△199
その他	△60	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,267	3,253
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△135	△3,815
現金及び現金同等物の期首残高	10,346	11,107
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,210	7,291

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2018年3月30日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日)が2018年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用できるようになったことに伴い、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来、当社が一部の販売先に製商品が引き渡された時点で収益を認識していた取引について、販売先から特約店に製商品が引き渡された時点で収益を認識するとともに、収益計上金額についても製商品が引き渡された時点の販売価格を基礎とした金額で収益を認識しております。また、販売奨励金等の特約店に支払われる対価について、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。さらに、返品権付きの販売については、従来、売上総利益相当額に基づき返品調整引当金を計上しておりましたが、予想される返品部分に関しては、変動対価に関する定めに従って、販売時に収益を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、次の①から③の処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

- ① 履行義務の充足分及び未充足分の区分
- ② 取引価格の算定
- ③ 履行義務の充足分及び未充足分への取引価格の配分

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上高が2,292百万円増加、売上原価が291百万円減少、販売費及び一般管理費が2,484百万円増加しており、売上総利益が2,583百万円増加、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ99百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高が1,320百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	20,906	2,571	23,477	—	23,477
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	24	24	△24	—
計	20,906	2,595	23,501	△24	23,477
セグメント利益	2,561	91	2,652	△1,692	960

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、動物用医薬品、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額△1,692百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	24,177	2,405	26,582	—	26,582
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	47	47	△47	—
計	24,177	2,453	26,630	△47	26,582
セグメント利益	2,297	125	2,423	△1,676	746

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、動物用医薬品、臨床検査および医療機器等の事業を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益の調整額△1,676百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「医薬品事業」の売上高が2,305百万円増加、セグメント利益が104百万円増加し、「その他」の売上高が12百万円減少、セグメント利益が5百万円減少しております。

3. 補足情報

(1) 主力品の売上高

主 力 品 の 売 上 高
(2 0 2 0 年 3 月 期 第 2 四 半 期 実 績)

(単位：億円)

品 目 名	前 期 2019年3月期		当 期 2020年3月期		対前年同四半期 増減率 (%)
	第2四半期 実績	年間実績	第2四半期 実績	年間見込	
高血圧症治療剤 カンデサルタン※	60.8	119.2	68.8	136.0	13.2
甲状腺ホルモン剤 チラーゼン	30.1	56.6	34.3	69.8	14.0
LH-RH誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤 リュープロレリン	20.8	41.7	24.7	45.2	19.1
難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	11.8	24.8	18.5	38.9	56.6
月経困難症治療剤 フリウェル	-	6.7	10.1	20.1	-
子宮筋腫治療剤 レルミナ	-	3.6	8.7	19.8	-
高血圧症治療剤 アムロジピン	7.0	13.9	7.9	15.3	12.3
高脂血症治療剤 リビディル	11.2	18.0	7.8	12.1	△ 30.5
抗甲状腺剤 メルカゾール	6.0	11.6	7.0	13.4	16.8
前立腺癌治療剤 ビカルタミド	6.2	12.2	6.9	10.6	11.3

※ カンデサルタン配合剤を含む

(2) 臨床開発状況

臨床開発状況

(2019年11月現在)

2019年11月5日
 あすか製薬株式会社
 東証市場第一部
 コード番号 4514

区 分	(開発番号) 一般名	領域・効能	備 考
申請中	(AKP-015) レボチロキシンナトリウム	粘液水腫性昏睡 重症甲状腺機能低下症	SERB,SA(ベルギー)より導入
PhaseⅢ	(CDB-2914) ウリプリスタル	子宮筋腫	Laboratoire HRA Pharma,SA (フランス)より導入
PhaseⅢ	(TAK-385) レルゴリクス	子宮内膜症	武田薬品工業(株)より導入
PhaseⅡ・Ⅲ	(L-105) リファキシミン	肝性脳症 (小児適応)	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より 導入
PhaseⅠ	(AKP-501) フォリトロピンガンマ	不妊症	JCRファーマ(株)からの導入および 共同開発
PhaseⅠ	(L-105) リファキシミン	クローン病	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より 導入
PhaseⅠ	(AKP-009) 未定	前立腺肥大症	自社開発